

# 学びの自覚につながる振り返る活動の充実 ～子供たちに学びの実感を～

「何をどのように学んだのか」「何ができるようになったのか」など、単位時間の授業や単元の終わりで、自身の考えの広がり深まり、新たな気づきを整理することは、学習したことを深く理解することにつながります。

自分の学びを振り返ることで、次への意欲や新たな問い・課題が生まれます。

## 本時の中で

- 学習の見通しを持つ
- 課題を共有する
- 課題解決していく

### 振り返る活動

- まとめ…課題に対する答え
- 個に戻る活動…教科の特質、目標に応じて
- 振り返り…学びに対する振り返り

充実

児童生徒にとって  
学びの自覚

教師にとって  
目標達成  
の見取り

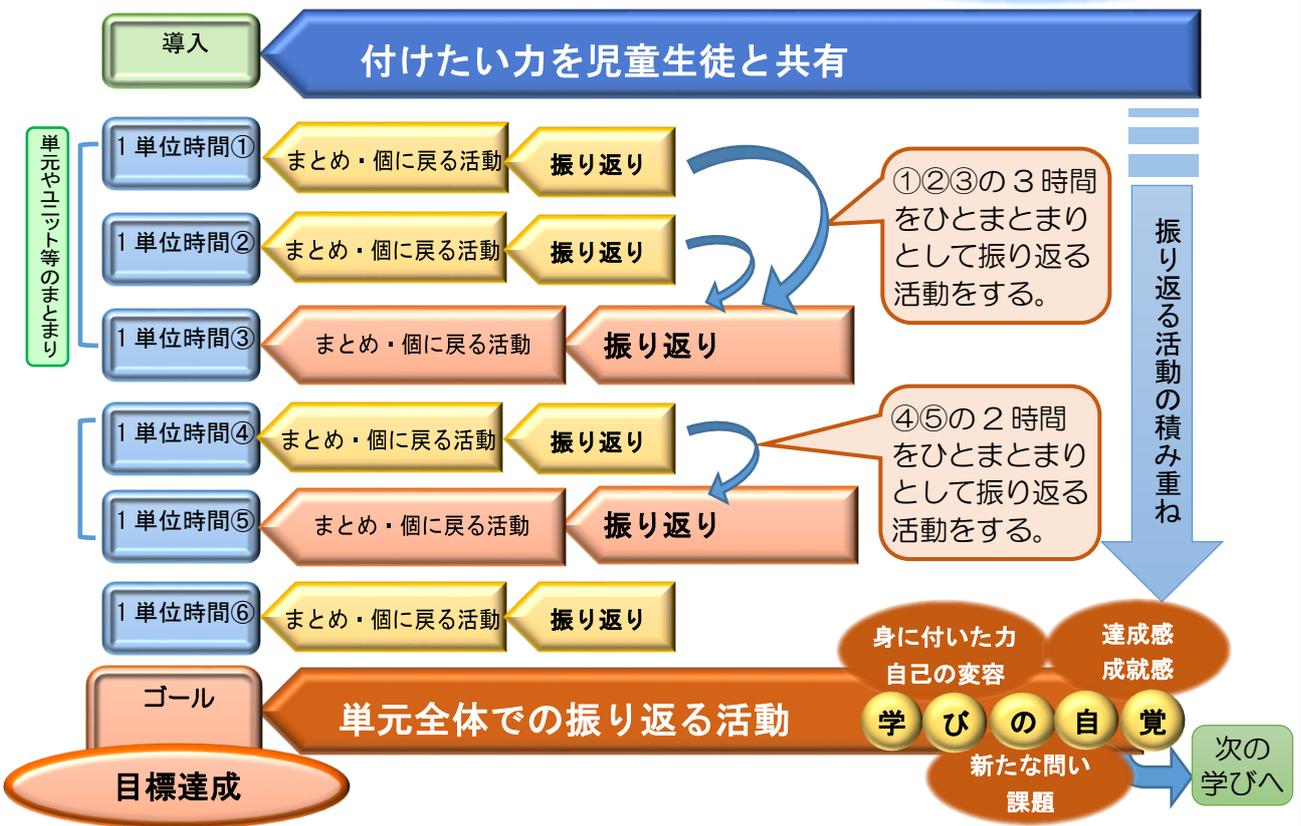


振り返る活動は、児童生徒が自分の伸びを最も実感する場面です。自らの変容や身に付けた資質・能力を自覚できるように工夫していきましょう

## 単元（題材）のまとまりの中で

柔軟で創意工夫のある  
振り返る活動

例



## 本時の学びを自覚する 振り返る活動を設定する

### ◆課題に対する「まとめ」を行う

- ・課題と整合させる。
- ・児童生徒の言葉を生かしてまとめる。

### ◆個に戻り、学びを深める活動を行ったり、 習熟を図ったりする

- ・学びを確認したり活用したりする活動を行う。
- ・評価の観点に応じて適用問題を適切に行う。
- ・B規準に達しない児童生徒に対する手立てを講じる。

### ◆学びに対する「振り返り」を行う

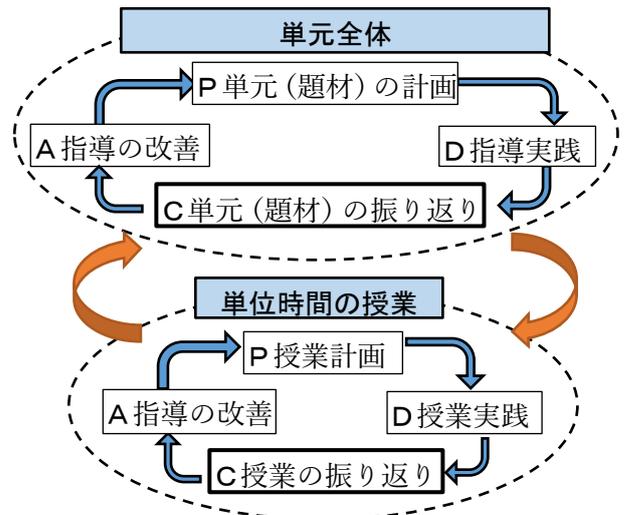
- ・「何をどのように学んだのか」「何ができるようになったのか」など、自己の変容を自覚したり、学び方を振り返ったりしながら、考えを整理させる。



## 「振り返り」の内容を吟味し、 指導改善に生かす

### ◆児童生徒の「振り返り」から、身に付けさせたい力を付けることができたか見取る

- ・目標が達成できたのか、学びを深めていたのを見取る。
- ・単位時間の授業ごとに、教師も指導の振り返りを積み重ね、単元(題材)全体を見渡して、計画を見直していく。



## 学びや変容の自覚につながる 「振り返り」にする

- ・「振り返り」の際には視点や書き出しを示す。

### 視点例

- 「どのように考えたのがよかったか」
- 「知っていることをどう使ったか」
- 「何が分かった(できるようになった)か」
- 「何がきっかけで変わったか」

など



- ・「振り返り」につながる板書となるよう、学習課題や思考過程が見えるようにする。
- ・目標達成のプロセスにも着目させる。
- ・学びを確かなものにする「振り返り」を取り上げたり、「振り返り」を伝え合ったりするなどの活動を通して、学習内容の確認と次への意欲や問いを共有する。

## 「まとめ」「振り返り」の内容を 具体的に持つ

- ・1時間の授業を考える時は、「本時で付けたい力は何か」「その力を付けた時のまとめ、振り返りにはどのようなことが書かれていけばよいのか」「そのためには課題や問い、指導方法をどのようにすればよいか」という流れで授業設計する。
- ・児童生徒に「学びの実感」がある授業となるよう、「振り返り」の時間を十分保障する。



ノートなどを児童生徒に返却する時には、児童生徒の次の学びにつなげるためにどのようにフィードバックするか考えましょう。

価値付ける時は、  
目標に沿って具体的に！

